

令和7年度花巻市文化財保存活用地域計画協議会会議録

1. 開催日時

令和8年2月16日（月）午後2：00～午後3：22

2. 開催場所

石鳥谷総合支所 3階 大会議室

3. 出席者

(1) 委員 7名

大原皓二委員（会長）、中村良則委員（副会長）、藤原啓昭委員
小原松雄委員、小原貞一委員、佐藤淳一委員、小国朋身委員

(2) 事務局 7名

佐藤勝教育長、瀬川幾子教育部長
（文化財課）

佐藤幸泰課長補佐、伊藤真紀子課長補佐、橋本征也係長
佐々木勝也係長、里館いづみ主査

4. 内容

議 題

(1) 令和7年度実施事業の進捗報告について

(2) 令和8年度以降実施予定事業について

5. 議事録

(1) 開会

(伊藤課長補佐)

それでは定刻となり、皆様もお揃いでございますので、会議を始めさせていただきますと思います。

ただいまから、令和7年度花巻市文化財保存活用地域計画協議会を開催いたします。開会にあたりまして、花巻市教育委員会教育長 佐藤勝よりご挨拶申し上げます。

(佐藤教育長)

旧正月が明日ということで、少しは穏やかになってきたような気がします。熊も出てきて気がかりなところですが、今日は本当に委員の皆様にはお忙しいところご出席いただきありがとうございます。

市の文化財保存活用計画、これを策定して2年目となりました。この計画は、市の文化財の保存活用に関する指針と具体的な方策を取りまとめ、何とか事業化を進め、今年で前期分の終了ということになります。日頃、私どもをはじめ、関係機関・関係団体の方々の協力をいただき、何とか地域の先人が残した遺産である文化財について、市民の多くの方々に関心を持ってほしい、あるいは関連施設やイベント等に足を運んでほしい、何とか地域の財産として地域で活用してほしい、そのような願いを持って、関係課・機関と協力して進めているところであります。

最近の市の文化財に関するニュースとしては、この後ご紹介申し上げますが、例えば、県の文化財保護審のご支援をいただいて「大迫のあんどんまつり」が県の指定無形民俗文化財として答申をいただきました。あるいは、国の登録有形文化財に、花巻ならではの温泉文化にちなんで、既に「花巻温泉松雲閣」が登録されていますが、今回「鉛温泉藤三旅館の本館」それから「藤三旅館白猿の湯」の登録の答申ということがございました。

それから、新市になってしばらく経つわけですけれども、改めて花巻全体の歴史、あるいは文化、そういったものについて、しっかり取りまとめることが必要だということで、博物館の市史編さん室を中心にして準備しておりますが、おかげさまで何とかこの3月中までには9つの部会の組織が立ち上がって、既に立ち上がった部会においては、ご協力いただく専門家の方々、先生方のお力をいただいて、調査の研究、資料収集、こういったものが既に始まっております。また、それに先んじて児童向けの市史も刊行することとしておりますが、何とか令和8年度中には印刷刊行までいける予定となっております。

今回は、今年度の実施事業についてご報告し、来年から3年間は中期の期間になりますが、そういった中で、いわゆる受け継ぐ・伝える・守る・創る・活かす、こういった分野に分かれておりますけれども、この推進に当たっての事業予定ということについてお諮り申し上げたいと思います。

まだまだ社会の変化というのはどのように変化していくのか、予想もつかない部分もありますが、今後そういったものにも対応していかなければならないと考えておりますので、初期期のこの計画の策定の目的、あるいは期待する効果、そういったような観点からも、様々ご協議いただき、忌憚のないご意見をいただければと思います。

今日、文化財課長は急遽欠席ということでございますので、ぜひご了解いただければと思います。よろしく願いいたします。

(伊藤課長補佐)

文化財課長は体調不良によりお休みとなりました。申し訳ございません。本日は文化財課長補佐の伊藤が代わりまして司会を務めさせていただきます。よろしく願いいたします。

それから、本日は委員の皆様 10 名中、ご出席いただきましたのは 6 名の方でございます。この 6 名の方で、どうぞ本日はよろしくお願ひしたいと思います。

(※小原貞一委員は途中出席のため、委員は合計 7 名の出席)

それでは次第の 3 に進みます。次第 3 の議題につきましては、花巻市文化財保存活用地域計画協議会設置要綱第 4 条第 2 項の規定により、議長を大原会長にお願ひいたします。大原会長、どうぞよろしくお願ひいたします。

(議長 大原会長)

それぞれ皆さんお忙しいところお集まりいただきました。次第に従いまして進行させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

では、議題の (1) 令和 7 年度実施事業の進捗報告について事務局からご説明をいただきまして、それぞれ章がございますので、章ごとにご説明をいただいた後、皆さんにお諮りして進めたいと思います。よろしくお願ひいたします。

(里館主査)

それでは、令和 7 年度実施事業の進捗を報告いたします。皆様、お手元の資料 No. 1-1 をご覧ください。こちらは表紙に記載しておりますとおり、花巻市文化財保存活用地域計画に記載の基本方針と具体的な取り組みのうち、実施計画期間に前期、令和 6 年から令和 7 年が含まれている事業を抜き出したものです。

今回は事前に資料へお目通しいただく期間を設けることができませんでしたので、恐れ入りますが記載されている一つ一つについて、ご報告をさせていただきます。それでは事業の報告に入りますので、座って説明させていただきます。

ア<受け継ぐ>について説明(議事録への記載省略)

(大原会長)

令和 7 年度に実施した事業の内容、進捗状況で、5 つの部門のうちの、ア<受け継ぐ>について一通り説明をいただきました。皆様からこの件についてご意見、質問等お願ひいたします。

中村委員さん。

(中村副会長)

D②で、部活動の地域移行に関わって、協力体制が構築されているということですが、具体的にどんな形で行われているのか教えていただければと思います。

(伊藤課長補佐)

部活動の地域移行というのが、スポーツ分野と芸術分野、合わせて今花巻市教育委

員会で取り組んでいるところです。そのうち、地域で活動されている民俗芸能団体さんに、中学生の部活動の受け入れが可能でしょうかというアンケートを今年取ったところ、うち7団体様から受け入れ可能というお返事をいただいたところです。神楽がほとんどですが、鹿踊もありまして、部活動とはいっても毎日練習があるのではないのですが、定期的もしくは長期休暇中に受け入れを行って、神楽の練習活動イコール部活動というような取り組みを想定しているというところでございます。

(中村副会長)

そうすると、今年はアンケートをとって、受け入れ可能な団体を把握して、実際の活動はこれからということでしょうか。

(伊藤課長補佐)

一部、受け入れを行って実施している団体もあるとお聞きしております。

(中村副会長)

分かりました。ありがとうございました。

(大原会長)

他に皆さんの方からありますか。

小国委員さん。

(小国委員)

大変盛りだくさんで、ご苦労様でございました。

私の方から3ページのD①伝承活動ですが、支援とか、それとコミュニティ会議を利用するというふうな形をとっているようですが、実態として大迫町外川目にある堅沢鹿踊と旭の又神楽が12、3年前から会員が入ってこなく、少なくなってどうしようもないので何とかしようと思ひ、個人的にいろいろ動きました。まず集落に人がいないか、集落にいないのであれば隣の集落で、最終的には村単位ぐらいまで広げて募集かけてみたらどうかということで。団体が頑張っても結局どうしようもなかったのも、コミュニティの方をお願いしたのですが、コミュニティの方でも、もう見つけれない、どうもできないということで、諦めて今の状況になってもう10年ぐらいです。一応休んでいるという形にはなっていますが、もう実際復活は厳しいかと。それとあわせて、中乙念仏踊も1人で、そこでもう継続できないということが起きています。

もう地域の努力では、これからの民俗芸能は継続できないのではないかと思います。やはり行政の力を頼るしかないのかと。であれば、継続するかどうかという判断をしなければならぬと思います。全部残すこともできないでしょうから、ここまで残そ

うとか、残すにはどうすればいいのかを考える組織というか、そういう専門的な人たちを組織化して、継続するものは継続するという形をとっていかないと、これから無理なのではないかという感じを受けました。

というのは先週、岩手県の民俗芸能団体の連絡会の研修会がありました。「継続についてどうするか」という話題で市町村ごとにアンケートをとって、30年ぐらい前に民俗芸能団体の保存状況を調べたものがあったので、それを丸バツで、保存するかどうかというのを今現在で調べましたが、かなり減っています。調べた当時は1200団体と言われており、今1000団体ぐらいかと思っておりましたが、実際は600団体ぐらいしか残っていないという実態です。どうしようかというのが先に立ちますが、そういう状況ですので、その中でも残していかなくてはならないのかと。

そのとおり人口減少というよりも集落が成り立ってない状態ですので、民俗芸能どころじゃないわけですが、文化的には残したいという気持ちもあります。そこをじっくり考えていただければというお願いでございます。以上です。

(大原会長)

ありがとうございます。今の小国さんのご発言について何かありますか。

伊藤課長補佐さん。

(伊藤課長補佐)

おっしゃるとおり、なかなか皆さん一番困ってらっしゃるのが、市でアンケートを取っても人がいないというところが一番の問題であって、皆さんそのようにご回答される団体が多いです。

集落には人がいないし、もう少し大きな単位のコミュニティでもないし、心ある若者は、各団体を掛け持ちでやってくれるような非常に頼もしい方もいますが、そもそもキャパがないというか、人がいないのは皆さんどこの課題でもあります。我々も重点的に何とかしたいとは思っていますが、なかなかこれだという決定策がなく、皆さんと同じ状況です。

その中でも若い人に声をかけるとか、女性とか市外などの地域以外のところにも門戸を開いているような事例を発表する会を、来月開催しようとして計画しているところです。先進事例があります、というような発表の場を作って、これから各民俗芸能団体さんにご案内差し上げるところです。そういったところから情報交換のようなことを始め、模索していきたいと思っていますところです。

(大原会長)

私事になります。この文化財保護審議会の代表にご案内を頂戴しまして、今年初めて、八木巻神楽さんの舞い納めと舞い初めの2回、続けて参上させていただきました。

お伺いしますと、八木巻集落そのものがやはり年々戸数も減っているらしく、実際に9戸とかいうような話もありまして、しかもその中であんな立派な神楽を伝承して、神楽の他にさんさ踊りも伝えているということに、びっくりするというか頭が下がり、感心して帰ったぐらいです。

他に皆さんの方からなければ、5項目の2番目のイ<伝える>、資料4ページからご説明ください。

(里館主査)

イ<伝える>について説明(議事録への記載省略)

(大原会長)

ありがとうございます。イ<伝える>のご説明がございました。皆さんの方から何かありますか。

それではイ<伝える>を終えまして、資料5ページ3番目のウ<守る>についてお進めください。

(里館主査)

ウ<守る>について説明(議事録への記載省略)

(大原会長)

ウ<守る>についてのご説明がございました。このことについて、よろしいですか。ウ<守る>については進めさせていただきました。

次に6ページのエ<創る>についてご説明ください。

(里館主査)

エ<創る>について説明(議事録への記載省略)

(大原会長)

ご説明ありがとうございます。エ<創る>について何かございますか。

小原委員さん。

(小原貞一委員)

お伺いしますが、先ほどのコミュニティ会議との連携とか講師依頼というのがありますが、年間どのくらい講師派遣しているのか。それから参加人数を参考までにお知らせ願いたいと思います。

(伊藤課長補佐)

今年の分について正確な数字は用意してこなかったのですが、年間5件ぐらいは各コミュニティから地域の文化財について説明してほしいとか、地域の歴史や地域の遺跡についてお話をしてほしいというような依頼があって、文化財課から講師派遣してお話をしているところです。人数については、コミュニティごとで10人だったり30人だったりとなっておりますが、申し訳ございません、正確な数字は持ち合わせておりません。そういった事例でございます。

(大原会長)

他にありますか。

佐藤委員さん。

(佐藤委員)

C④の周知と広報ですけれど、ホームページで公開となっておりますが、確認です。これはホームページに計画の全体を公開していて、1冊丸ごとっていうことでよろしいですか。

(里館主査)

はい。

(佐藤委員)

何と言うのでしょうか、他の自治体によっては、これを要約した概要みたいなものを作ったりする場合がありますが、花巻市さんは特に今のところはホームページに出しているとか、何か印刷して配布しているとか、そういうことはありますでしょうか。

(里館主査)

概要版は作成していますが、ホームページに概要版まで載せていたかどうかは定かではありません。

(佐藤委員)

分かりました。ホームページで公開と書いていますが、別にホームページではなくても、印刷あるいは何か掲示とかいろいろな目に触れるところに、そういうものを置いたり何か貼り付けておいたりするの、気づく方がいるのかなと思いました。

(里館主査)

確認したところ、概要版もホームページに掲載しておりました。印刷等については

今後検討していきたいと思います。

(佐藤委員)

できるだけ皆さんに知ってもらえる方策を更にやっていただければと思います。

(大原会長)

ありがとうございます。他にございましたら。なければ、次に進みます。

オ<活かす>についてご説明ください。

(里館主査)

オ<活かす>について説明（議事録への記載省略）

(大原会長)

オ<活かす>につきましてご説明終わりました。このことについて、皆さんからありますか。それではないようですので、以上アからオまでの令和7年度の実施進捗の報告がございました。

次に、1枚もので令和7年度の成果指標のある資料をご覧ください。ご説明お願いいたします。

(里館主査)

成果指標について説明（議事録への記載省略）

(大原会長)

ありがとうございます。成果指標についてのご説明がございました。このことについて何か皆様の方からありますか。

中村委員さん。

(中村副会長)

成果指標はあった方がいいとは思いますが、ぱっと見たところ、結局行政の方の活動の成果指標みたいところがあって、こういう活動をしました、こういう出版物を出しました、という印象を受けます。とても大切なことだとは思いますが、本質的には先ほどの小国委員もおっしゃいましたけれども、民俗芸能なら民俗芸能を担っている団体がどの程度あるのか、増えているのか減っているのか、減っているとすれば、減っている程度が少ないか大きいかということがあると思うのです。

それから、伝承する部活動ということがありましたけども、それに参加している地域とか学校とか部の数とか、それからそこに参加している実際の子供の数はどのくら

いいとか、実際に文化財の数とか、文化財を担っている活動のバロメーターになるような指標がいくつかあるといいのではないかと思います。

ただ実際にどうやって計るかという問題があるし、あまり過大な目標を設定してもハードルが高くなるだけでしょうから、先ほど委員の方がおっしゃったように、伝承していくために最低限これだけのものは残しておきたいとか、活動水準を維持しておきたいというような目標、過大にならない形で極少数でいいから精選して、それで件数的に毎年チェックしていくということ等があればよろしいのではと思いました。が、いかがでしょう。

(大原会長)

ありがとうございます。

(中村副会長)

言うは易しく実行するのは非常に難しいことだ。誰もわかることだと思えますが、ただ過大にならない形でということ、それから数的なものなのか定性的なものなのか、いくつかあるとは思いますが、もう少し工夫されてもよろしいのではないかと思います。

(伊藤課長補佐)

おっしゃる趣旨はとてもそのとおりでと思うのですが、活動実態を把握するとなると毎年各民俗芸能団体さんにアンケートをお願いしないことにはわからないので、協力してくれるところと、負担なのでもう送ってこないでほしいというところもあると思うので、その辺の塩梅が辛いかなとは思っています。

クラブの地域移行については、おそらく教育委員会内で把握できると思いますので、その辺を取り入れるような形で再度揉んでみたいと思います。ありがとうございます。

(佐藤教育長)

今のご意見、大変ありがとうございます。実はこれからの事業の中で、おそらく入っていくことになろうかと思いますが、この把握の仕方については、いわゆる抽出するメッシュの筈の目が相当荒いので、今このような数字を出しています。これも少し細かくしていくと、例えばお祭りの参加者数のようなものも多分入ってくると思います。そうするとものすごい数になってくると思います。それから、各団体でのいわゆる年中行事とか、公演した回数であるとか、そういったところについては、まずある程度把握できるだろうと思います。

また、これからおそらくこのことについて入れていかななくてはならないというのは、いわゆる学校でコミュニティスクールというのがスタートして、学校運営協議会が非

常に活発になってきて、そういった学校運営協議会の中で、やはり地域の歴史文化あるいは郷土芸能ということについて、かなり今積極的に、いわゆる特色ある学校作りの中に取り入れている例があります。総合的な学習でありますとか、あるいは学校行事でいろいろな郷土芸能を発表することは、本当に実は花巻はものすごい数で、こういったことも誇らしいです。そういったものも入れていくのもいいと思います。

あと、学校運営協議会での1つの成果とすると、湯本地区で休止していた田植踊が復活しました。そういったことも実は明るいニュースだということで、全部の郷土芸能を残すというのは、おそらく、絶対的なこの少子化あるいは担い手の不足ということで、これは相当厳しい作業だと思いますが、では何ができるのかというと、やはり場合によっては遺跡と同じですけれども、いわゆる記録保存ということは、これはしっかりやっておかなければならないと思います。

それから、それぞれの団体で、例えば市の指定文化財でも、もう指定解除してほしいというところもありますけれども、過去においては、解除したけれど復活したということもありましたので、その辺は少し長い目で見ていくことも大事だろうなと思います。答えになりませんが、そのような状況で進められればと思います。

(中村副会長)

ありがとうございます。

(大原会長)

今の成果指標につきまして、もしなければ、次に進めます。

それでは、令和8年度以降、実施あるいは予定の事業についてのご説明をお願いいたします。

(里館主査)

令和8年度以降実施事業について説明

ア<受け継ぐ>について説明（議事録への記載省略）

(大原会長)

ア<受け継ぐ>、令和8年度以降、中期計画に基づくご説明をいただきました。よろしければ次に進みます。

資料5ページ、イ<伝える>についてご説明をお願いいたします。

(里館主査)

イ<伝える>について説明（議事録への記載省略）

(大原会長)

皆さんの方から何かございますか。

(佐藤教育長)

観光協会で、郷土芸能を見られる商品は何かあるのですか。

(藤原委員)

観光協会では、新年度、直接協会主催で何かというのは特段ないですけども、前回の会議でも少しお話しましたが、やはり観光の方々は市内に来られると、移動用の足の部分が不足し、二次交通の部分がどうしても不足します。

これから3月だとひな祭があるので、周遊のツアー、市内だけですけども、そういった企画をして3月に提供します。年間通してそういったものは実施しております。極力そういった情報があれば、当協会の方でもホームページにアップさせていただいておりますし、直接働きかけてどうこうというものはないです。

(伊藤課長補佐)

観光協会さんのページで、各神楽のイベントの周知とかお祭りの周知とかは、以前から継続的にやっていただいております。バスを出すとか、何かツアー商品を作るとかいうところはちょっと重いですけども、細々としたイベント等でご協力いただいているところではございます。

(佐藤教育長)

舞い初め・舞い納めの時に県外から来る人は相当多いですよ。

(小国委員)

半分は県外です。

(伊藤課長補佐)

おそらく温泉とか市内に泊まっているのだと思いますが、皆さんマイカーとかでいらっしゃるのでしょうか。東京の人は、岳までどうやっていらっしゃるのでしょうか。

(小国委員)

新幹線とタクシーが多いように思います。冬場のレンタカーは少し怖いですからね。

今年の元日に、花巻温泉の公演を、夜8時という時間帯でしたけれども、花巻温泉で毎日のように民俗芸能やら民謡とか、そういうものを行って、外国人たちがいっぱい

い来ておりすごく喜んでおりました。玄関ホールでやりますが、満杯なのです。これはすごいと思います。これを 365 日続ければ、伝統芸能を鑑賞する機会にもなるし、観光にも繋がるのではないかと感じて帰ってきました。

(佐藤教育長)

出演する団体も、練習を兼ねると言えば失礼ですが、やはり出番が多くなるので、技量はどんどん上がっていくということですね。他の市町村を見て、例えば盛岡の繋とかに行くと、さんさ踊りやいろいろな団体が来て繰り返してやっており、そういったことについては、実は文化振興・発信という意味では結構大きな事業だと思います。

(大原会長)

他に何かなければ進めます。

次は 7 ページになりますね。ウ<守る>についてお願いします。

(里館主査)

ウ<守る>について説明（議事録への記載省略）

(大原会長)

ありがとうございます。地域の文化財を守る。このことについてよろしいですか。進めさせていただきます。

それでは、9 ページのエ<創る>についてご説明ください。

(里館主査)

エ<創る>について説明（議事録への記載省略）

(大原会長)

9 ページ、10 ページにわたってのご説明です。なければ進めさせていただきます。

11 ページのオ<活かす>についてのご説明をお願いいたします。

(里館主査)

オ<活かす>について説明（議事録への記載省略）

(大原会長)

ありがとうございます。11 ページ中 2 ページにわたっての説明がございました。

藤原委員さん、お尋ねします。11、12 ページの中の D③に観光ガイド養成の事業とございますが、花巻ボランティアガイドさんの現状についてご説明ください。

(藤原委員)

花巻市のボランティアガイドは今 13 名ほどおります。ボランティアガイドの養成講座は今年度も開催予定でしたが、実態としてはお申し込みが少なく、令和 7 年度は講座の開催に至りませんでした。ですので、今のところガイドが増えている状況にはないです。近年団体での観光も減ってきている部分もありまして、ただ個人の観光客の方が増えておりまして、少数でのガイドの利用というのはございますので、引き続きガイド養成はしていく予定です。

あとは、人としてのガイドというところとは違いますけども、新年度観光協会では市内、今のところ 60 ヶ所ぐらいの予定ですが、音声ガイドを使ってスマホを持っていらっしゃる方が多数おられますので、そういったところでアプリを利用して市内を巡っていただけると、観光地の場所に近づくとガイドが流れるというようなものを令和 8 年度にやる方向で今進めているところです。

(大原会長)

ありがとうございます。

ひととおり令和 8 年度以降の実施計画をご説明いただいたところでございますが、もしなければ、令和 8 年度以降の実施予定事業についてのご説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(伊藤課長補佐)

大原会長、ありがとうございました。続きまして、次第の 4 番その他に移らせていただきます。

まず初めに事務局からお知らせをさせていただきます。今年度の会議は終了したところですが、次回の本協議会の開催時期についてです。令和 8 年度末を予定してございます。令和 9 年の 2 月を予定してございますので、どうぞよろしく願いいたします。事務局からは以上でございます。

その他について、委員の皆様から何かございましたら、どうぞおっしゃっていただければと思います。

(小原松雄委員)

全くこの協議会と関係ないと思いますが、今私がおります旧小原家住宅、それから伊藤家住宅において、あるいは熊谷家においてはあることはあるのですが、トイレの整備ということで、要望といたしますかお願いでございます。かつて見たことがないようなトイレが設置されております。この改修についてお願いしたいと思います。

今、小原家住宅にあるのは、全くの簡易トイレでございます。以前、補助事業を経て作ったトイレは使えない状態でございます。その実態等を把握しているのかどうか

分かりませんが、とても恥ずかしい状況でございます。これらの整備は多分相当お金がかかると思います。年次計画なり計画されまして、順次整備を願いたいという要望でございます。以上でございます。

(伊藤課長補佐)

今後整備については検討させていただきます。ありがとうございます。その他、何かございますか。

ないということで、以上をもちまして、令和7年度花巻市文化財保存活用地域計画協議会を閉会します。本日はどうもありがとうございました。